

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話 2-9772

海士町の教育活動

海士町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を紹介いたします。

【ICT活用】

海士町では教育の魅力化のための施策の一つとして、「ICTの活用」に力を入れていきます。昨年度から算数・数学における個別最適化学習のためのデジタル教材「Qubena」を導入していますが、今年度も引き続き各校で活用を進めながら、町内で情報交換を行い、より有効な活用方法を模索しているところであります。また海士中学校においては、英語版「Qubena」の無料トライアルにも参加しています。

さらに今年度はGIGAスクール構想により一人一端末の環境が整備されることを見据え、導入するタブレット機器や授業で活用するソフトの

選定を進めてきました。

選定にあたっては、まず町内に、各校のICT活用推進教員、教育コーディネーター、指導主事、教育委員会担当者

などからなるICT活用推進チームを立ち上げました。そしてチーム内で研修会や検討会を重ねるなかで、海士町ではICTを活用してどのような教育を行うのかというビジョンを共有し、その実現のためにはどの機器やソフトを使えばよいかという視点をもって検討を行っています。

機器の選定はすでに終わつたため、今後は各校でデジタル教材や学習支援ツールを活用した授業公開を実施し、それぞれのソフトの有効性を確認したり、具体的な活用のイメージを共有したりしながら、導入する教材を選定する作業を行っていきます。
GIGAスクール構想の目

指す大きなところは「個別最適化」による学びです。今後に向けた準備を入念に行うことで、子供たちが新しい学び方にスムーズに移行できるように環境を整えていきたいと思っています。

(文責 派遣指導主事 濱)

【海士町の人権・同和教育推進事業の取組】

海士町ではここ数年、海士町人権・同和教育推進協議会(ゆるじわPJT…ゆるやかにじわじわと『楽しむ』『学ぶ』『動く』人権・同和教育プロジェクト)が中心となつて、「子供の人権」「障がいの理解」をテーマに地域・家庭・学校の間がりを生かして、子供たちと共に人権感覚を醸成していく活動を展開しています。

昨年度からの二年間は島根県同和教育推進協議会連合会隠岐ブロックの事務局を担当し、「障がいの理解」をテーマとした講演会・学習会の企画を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、企画段階からなかなか前に進めずにいました

が、『できること』でチャン

スを生かしていこう」というプロジェクトチームの熱意によつて研修会開催に向けた企画が動き出しました。

山陰を拠点に臨床心理士として活躍されている難波寿和さんを講師として松江市と島前各町村をつなぐ遠隔システムによつて人権講演会を開催しました。自らが発達障がい

の当事者・支援者であるという立場から話される世界観や支援方法などの内容に、参加者からは「もっとお話が聞きたい」「相談したいので来島してほしい」などの感想を伺うことができました。

コロナ禍の状況はなかなか治まらず、これまであたり前にできていたことができにく

い状況も長期化が予想されます。各地で人権侵害にかかわる問題も起こっています。裏を返せば「人のあたたかさ」や人権感覚が問われている状況とも捉えられます。人権教育、社会教育はどのような役割が求められるのかを問い続けながら地域づくり、人づくりに携わりたいと思います。
(文責 派遣社会教育主事 山下)

令和元・二年度 島根県教育委員会人権教育研究発表会を終えて

十月十六日(金)、西郷中学校が「自他を認め、共に学び、主体的に活動する生徒の育成」を研究主題に研究発表会を行いました。

当日は、一人一人が安心して生活するために、課題を見いだし、合意形成を図るとともに実践しようとする事ができる生徒の姿を目指して、全校生徒による人権集会(生徒会活動)が行われました。集会のテーマは『誰もが安心して過ごせる学校を目指して』でした。このテーマは、全校生徒に行ったアンケート結果をもとに、生徒会事務局が設定しました。このテーマに沿って、全校生徒が縦割りグループで学校生活の充実と向上を図るために話し合いました。

グループの話し合いでは、誰かの発言に対して、共感的に受け止める姿や、困っていることや理想像について安心して語り合える姿が見られま

した。この姿は、西郷中学校が生徒の人権感覚を育てるために、教科の授業や、特別活動等で体験的・協同的な学びの機会を積み重ねてきた成果であると思われています。

生徒の振り返りでは、「人はそれぞれ価値観が違うから、人権は難しい問題なのだと思います」「この集会でみんながそれぞれ目標を持って学校生活を過ごせるのではないかと思います」「頑張っている人や頑張ろうとしている人がいたら全力で応援します。誰かから頼られる存在になりたいです」「人それぞれ違いがあることを忘れずに生活していきます」といった記述がありました。集会活動が、自分を振り返り、今後どのように実践していくのかを考える時間となつたようです。

管内の学校におかれましては、西郷中学校の取組をそれぞれ学校の実態に合わせて活かしていただきますようお願いいたします。

(文責 藤野)